

(資料紹介)
蘭印と日本人
—写真/写真絵葉書百選—
(Introduction of Historical Materials)
The Dutch East Indies and Japanese:
100 Early Photos/Photo Postcards

青木 澄夫
AOKI Sumio

報告者は、12月4日、5日に龍谷大学で開催される、第103回東南アジア学会研究大会において、「(資料紹介) 南洋と日本人 写真/写真絵葉書百選」を発表予定である。ここ十年余の間、第二次世界大戦以前に、東南アジア各地で日本人の手により撮影・作成・販売された写真や写真絵葉書を中心に、図像資料の収集に努めてきた。

東南アジア学会では、インドネシア、タイ、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、マレーシア、ベトナムで、日本人が関与した写真/写真絵葉書等100点を紹介する。(うちインドネシアは15点ほど)

これらの図像資料については、海外のいくつかの研究機関や博物館・公文書館などが、その収集や保存、公開を積極的に進めている。東南アジア学会での発表は、報告者が所有するこれら図像資料の保存及び公開等について、同学会会員諸氏にお知恵を拝借したいとの思いからである。

一方、この間に収集してきた史資料の半分は、オランダ領東インド関連のものである。昨年のカパル研究大会では「日本市民が撮影したオランダ領東インド」と題して報告した。また歴史に埋もれた市井の日本人等については、「じゃかるた新聞」や「月刊インドネシア」等で紹介してきた。

発表は、佐竹輝信の作品を中心に、藤崎市郎太、槇田益雄、古川伍平、市川文次郎、島根商会(花岡泰)、南洋商会(堤林数衛)、川合商会(川合茂助)など100点を予定している。なるべく未発表の作品を選定予定だが、限られた史資料のため、既発表作品も含まれることを、あらかじめご承知おき願いたい。

カパルの会に関わる人々(とりわけ若い人々)にも、先人が図らずも残してくれたこれらの足跡に、関心を持っていただけたら幸いである。